

さざ波のように沸き立つふさとへの想い—
その歌声は過去と未来をやさしく包み込む

小林沙羅

New Album

日本の詩^{うた}

2019.11.20 Release



サードアルバムリリース記念

小林沙羅

ソプラノ・リサイタル

© 日本コロムビア



- | | |
|-------------------------------------|-------------------------------|
| 1. 小さな空 | 9. せきれい* |
| 2. うみ | 10. 浜木綿* |
| 3. この道 | 11. 初恋 |
| 4. ふるさと | 12. 荒城の月 |
| 5. 早春賦 | 13. ペチカ |
| 6. 赤とんぼ | 14. 或る夜のころろ
—『智恵子抄』より ★初収録 |
| 7. お六娘 | 15. 死んだ男の残したものは |
| 8. うぐひす
—春夫の詩に據(よ)る
四つの無伴奏の歌— | 16. ひとりから ★初収録 |

小林沙羅(ソプラノ)／河野紘子(ピアノ)

澤村祐司(箏)*／見澤太基(尺八)*

[UHQ-CD] COCQ-85476 ¥3,000+税



ソプラノ歌手 小林沙羅が童謡唱歌を中心とした日本の詩(うた)を歌う

詩人・谷川俊太郎が小林沙羅の為に書き下ろした新曲も収録!

<https://columbia.jp/>



日本の詩^{うた}

SARA KOBAYASHI SOPRANO RECITAL

2020年8月10日(月・祝) 14:00開演 ● 浜離宮朝日ホール

2:00p.m., Monday, August 10, 2020 at Hamarikyu Asahi Hall

主催：朝日新聞社／ジャパン・アーツ 協力：日本コロムビア

PROFILE



© 日本コロムビア

小林 沙羅 Sara Kobayashi
(ソプラノ／Soprano)

東京藝術大学及び同大学院修了。2010年度野村財団奨学生、11年度文化庁新進芸術家在外研修員。14年度ロームミュージックファンデーション奨学生。2010～15年ウィーンとローマにて研鑽を積み演奏活動を行う。2017年第27回出光音楽賞受賞。2019年第20回ホテルオークラ賞受賞。

2006年『バスティアンとバスティエンス』バスティエンスでデビュー後、東京芸術劇場『トゥーランドット』リユー、日生劇場『ヘンゼルとグレーテル』グレーテル、兵庫県立芸術文化センター『こうもり』アデーレ、新国立劇場『パルジファル』花の乙女等に出演。千住明・松本隆の『隅田川』狂女、三枝成彰『KAMIKAZE』愛子など、多くの新作オペラ初演を務める。2012年ブルガリア国立歌劇場『ジャンニ・スキッキ』ラウレッタで欧州デビュー、海外へも活動の幅を広げる。2015年野田秀樹演出『フィガロの結婚』にスザンナ役で出演し好評を博す。2017年『カルメン』ミカエラで藤原歌劇団に初出演を果たした。2018年には兵庫県立芸術文化センター『魔弾の射手』エンヒュン役で、2019年には全国共同制作オペラ『ドン・ジョバンニ』にも出演。2020年には『紅天女』タイトルロール役でも出演。

2014年デビューアルバム「花のしらべ」、2016年セカンドアルバム「この世でいちばん優しい歌」に続き2019年11月にはサードアルバムとなる「日本の詩（うた）」をリリース。

日本声楽アカデミー会員。藤原歌劇団団員。大阪芸術大学准教授。



河野 紘子 Hiroko Kohno (ピアノ／Piano)

桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学を経て同大学研究科を修了。これまでに「東京・春・音楽祭」や「ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン」などの音楽祭に出演。テレビ朝日「題名のない音楽会」、NHK-FM「リサイタル・ノヴァ」などメディアでの露出も多数。桐朋学園大学声楽科嘱託演奏員、現在は二期会研修所ピアニスト、NHKカルチャーセンター青山教室講師を務める。声楽・器楽などとのアンサンブルに定評があり、CD録音も多く参加するなど、共演者から信頼を寄せられている。また、フジテレビで放送されたドラマ「のだめカンタービレ」の主人公（上野樹里）の手・音の吹き替え、現場での指導を担当するなど、多方面へ活動の幅を広げている。



澤村 祐司 Yuji Sawamura (箏／Koto)

宮城社大師範 金津千重子に師事。東京藝大を経て同大学院修了。伝統的な地唄箏曲、宮城道雄作品の演奏の他、作編曲にも取り組む。「第2回 八橋検校日本音楽コンクール」八橋検校賞。熊本県立劇場、いわき芸術文化交流館アリオスのアウトリーチ事業に参加。2015年、18年にリサイタル開催。朗読ミュージカル「山崎陽子の世界」にて物語の作曲を手がける。宮城社師範。詩と音楽のVOICE SPACE代表。



見澤 太基 Taiki Misawa (尺八／Shakuhachi)

北海道札幌市出身。尺八を菅原久仁義に師事。東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。東京国立博物館における『光彩時空』、篠井英介主演の舞台『サロメ』での演奏、『さらい屋五葉』（フジテレビ）の音楽に参加するなど幅広く活動。地域活性化邦楽事業（2010年熊本県、2018年広島県）に参加。熊本県立劇場、いわき芸術文化交流館アリオスのアウトリーチ事業に参加し学校公演等を行う。これまでに、ソプラニスタ木村優一と『尺八×ソプラニスタ』、『みさわたいき尺八コンサートシリーズ』等を開催。

PROGRAM

出演者： 小林 沙羅 Sara Kobayashi (ソプラノ／Soprano)

河野 紘子 Hiroko Kohno (ピアノ/Piano)

見澤 太基 Taiki Misawa (尺八/Shakuhachi)

澤村 祐司 Yuji Sawamura (箏／Koto)

作詩・作曲／武満徹 編曲：轟千尋：小さな空（詩：武満徹）

山田耕筈：この道（詩：北原白秋）

山田耕筰：赤とんぼ（詩：三木露風）

山田耕筈：ペチ力（詩：北原白秋）

中田章：早春賦（詩：吉丸一昌）

越谷達之助：初恋（詩：石川啄木）

作詩／谷川俊太郎 作曲／武満徹 編曲：轟千尋：死んだ男の残したものは

中村裕美：「智恵子抄」より（詩：高村光太郎）
 或る夜のころ／あなたはだんだんきれいになる／亡き人に

* * * * *

早坂文雄：うぐひす（詩：佐藤春夫）

瀧廉太郎：荒城の月（詩：土井晩翠）★＊ピアノ無し

宮城道雄：せきれい（詩：北原白秋）◎★

宮城道雄：浜木綿（詩：宮城道雄）◎★

井上武士：うみ（詩：林柳波）

橋本国彦：お六娘（詩：林柳波）

橋本国彦：舞（詩：深尾須磨子）

作詩／谷川俊太郎 作曲／小林沙羅 編曲：相澤直人：ひとりから

◎：見澤太基(尺八) ★：澤村祐司(箏) ピアノ：河野紘子

PROGRAM NOTES

曲目解説:柿沼 唯(作曲家)

武満徹：小さな空（詩：武満徹／編曲：轟千尋）

現代音楽の作曲家として世界的名声を博した武満徹(1930-96)は、映画やTVやラジオの仕事にも数多く携わった。＜小さな空＞は1961年頃、ラジオ・ドラマ「ガン・キング」のために書かれた歌で、作曲家自身による歌詞が、少年の無垢な心を感じさせる「ポピュラーソング」。

山田耕筈：この道（詩：北原白秋）

山田耕筰：赤とんぼ（詩：三木露風）

山田耕筰：ペチカ（詩：北原白秋）

山田耕筰(1886-1965)は様々な先駆の業績を残した作曲家だが、日本語の抑揚を生かした歌曲・童謡の作曲はもっとも広く知られている。＜この道＞、＜赤とんぼ＞は、大正15年から翌年にかけて発表された「童謡百曲集」に含まれる曲。童謡ならではの純粋な感性はもちろん、これらは大人にとっても幼き日への郷愁をさそう名歌といえよう。＜ペチカ＞は大正12年に作曲された抒情歌。ロシア式暖炉器具「ペチカ」を囲みながら春を待ちわびる情景を歌うこの曲はもとも、「満州唱歌集」のために作詞作曲された。

中田章：早春賦（詩：吉丸一昌）

中田章(1886-1931)は中田喜直の父で、東京音楽学校の教授を務め、オルガニストとしても知られた。多くの童謡の作詞者として知られる吉丸一昌の詞に作曲されたこの「早春賦」は、1913年(大正2年)に発表され、戦前の女学生がもっとも愛唱した歌の一つだったという。

越谷達之助：初恋（詩：石川啄木）

人間の悲しみを、口語体・三行書きという革新的手法で短歌にし、明治の詩壇に大きな足跡を残した夭逝の歌人、石川啄木の15篇の短歌に、越谷達之助(1909-1982)が曲をつけた歌曲集<啄木によせて歌える>の中の一曲。その感傷的なメロディは広く親しまれている。

武満徹：死んだ男の残したものは（詩：谷川俊太郎／編曲：轟千尋）

＜小さな空＞と同じく、映画音楽の挿入歌などとして作曲された「ポピュラーソング」の一曲だが、作曲の経緯はやや異なり、ベトナム戦争のさなかの1965年に「ベトナムの平和を願う市民の集会」のために、親友の詩人谷川俊太郎とともに作った歌である。

PROGRAM NOTES

中村裕美：「知恵子抄」より（詩：高村光太郎）

中村裕美は東京芸術大学作曲科卒。詩と音楽のパフォーマンスグループVOICE SPACEのメンバーとして活躍するなど、声楽曲を積極的に手がけている。高村光太郎の名高い詩集「知恵子抄」からの3つの詩に作曲された「或る夜のころ」「あなたはだんだんきれいになる」「亡き人に」の3曲はいずれも、小林沙羅のために作曲されたドラマティックな作品。

早坂文雄：うぐいす（詩：佐藤春夫）

黒沢明監督作品をはじめとする多くの映画音楽を手がけた作曲家、早坂文雄（1914-1955）の数少ない歌曲から「春夫の詩に據る四つの無伴奏の歌」の第1曲。汎東洋主義を標榜したこの作曲家らしく、東洋的なメリスマが旋律を彩る。

滝廉太郎：荒城の月（詩：土井晩翠）

滝廉太郎（1879-1903）の代表曲。土井晩翠の詩は、仙台の青葉城あるいは会津若松の鶴が城をモデルに書かれたものといわれ、滝廉太郎は、故郷である大分県竹田市の岡城趾でイメージをふくらませて、この曲を作曲したと伝えられている。今回は箏の伴奏で歌われる。

宮城道雄：せきれい（詩：北原白秋）

「春の海」の作曲者として知される箏曲家、宮城道雄（1894-1956）が北原白秋の詩に作曲した3拍子の歌曲。尺八と箏の伴奏で歌われる。

宮城道雄：浜木綿（宮城道雄）

宮城道雄自ら作詩も手がけた唯一の歌曲であると同時に、宮城道雄の遺作となった作品。紀州の実業家と親交があった宮城は、たびたび白浜を訪れたことから、白浜の情景を歌ったこの「浜木綿」の詩を作り、1956年にその詩を刻んだ詩碑が白浜に建てられた際、その除幕祝賀記念演奏会で披露されたのがこの曲だった。それから3週間後の6月25日、宮城は列車からの転落事故のため帰らぬ人となった。

井上武士：うみ（詩：林柳波）

「虫の声」「お月さま」などの童謡を残した井上武士（1894-1974）の童謡名曲の一つ。作詞の林柳波は大正時代の童謡運動に貢献したことで知られる詩人で、小林沙羅の曾祖父にあたるという。

橋本国彦：お六娘（詩：林柳波）

山田耕筰、信時潔に続く歌曲作曲家として名高い橋本国彦（1904-1949）の代表的歌曲の一つ。林柳波のユーモラスな詩につけられた、くるくると表情を変える民謡風のメロディが、お六娘の気を引こうとする若者たちの姿を生き生きと描く。

橋本国彦：舞（詩：深尾須磨子）

日本歌曲を代表する傑作の一つにも数えられる。「六代目菊五郎の娘道成寺に寄せて」の副題を持ち、深尾須磨子の散文詩を、義太夫を想わせる表情豊かな語りと歌とを絶妙に組み合わせた独特の曲調で彩り、ピアノと歌とが濃密なドラマを繰り広げる大曲。

小林沙羅：ひとりから（詩：谷川俊太郎／編曲：相澤直人）

今回リリースのCD「日本の歌」のために谷川俊太郎に詩を委嘱し、小林沙羅自らが曲をつけた作品。「人と人との繋がりが大きな輪になり、世界をひとつにして、平和をもたらす」というメッセージが込められている。

当公演の見逃し配信を予定しております。
詳細はジャパン・アーツホームページをご覧ください。